

2	学習指導 B
テーマ	主体的・協働的に解決する力を育む学習指導
基調	<p>全国学力・学習状況調査において、子供たちは判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べたり、実験結果を分析して解釈・考察し説明したりすること等について課題が指摘されている。また、習得した知識・技能や学び方を十分に活用できていないことも問題点として挙げられている。</p> <p>新学習指導要領には、将来の予測が困難な社会の中でも未来を切り拓いていくためには、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養が必要になると示されている。それらを獲得するためには、子供たちは興味・関心を原動力として、各教科における「見方・考え方」を働かせ、様々な課題に対して主体的・協働的な学習を行うことで、深い学びを実現することが大切である。そのためには、まず教師が、各教科の指導内容を十分に理解した上で、その教科における「見方・考え方」として育むべき課題解決のための視点や思考方法を意識した指導をする必要がある。その上で、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を行わなければならない。それには、子供たちの興味・関心を引き出す導入、課題意識が連続する単元構成の工夫、対話を通じて自他の考えを吟味する協働的な場の設定等、学び全体を見通した改善が求められる。それらを通して、各教科の「見方・考え方」が更に豊かになり、子供たちの深い学びが実現し、新しい時代を創造する力を身に付けさせることができると考える。</p> <p>前回大会（山口大会）では、主体的な学習に取り組みさせるためには、疑問や既習内容との矛盾等を用いて課題意識を醸成させることや、身に付けさせたい力を明確にした上で、単元を見通した学習過程を作成することの重要性が明らかになった。一方で、対話的な学びの実践の積み重ねが必要であることや、深い学びの捉え方が課題として挙げられた。</p> <p>本分科会では、山口大会に引き続き、深い学びを実現するアクティブ・ラーニングの視点に立った学習指導の在り方や、各教科の「見方・考え方」を軸とした授業改善等、具体的な実践事例を基に研究を深めていく。</p>
研究の視点	<ol style="list-style-type: none"> 1 アクティブ・ラーニングの視点に立った学習指導の在り方 <ol style="list-style-type: none"> ① 主体的・協働的に学ぶ基盤づくり（学び方、学習集団等） ② 単元構成、指導計画の工夫・改善 （目的意識の継続、学習の見通し、発展性のある学習内容の選択等） ③ 学習過程の工夫・改善 （発問や課題づくり、課題解決の方法や手段の決定、協働的な学びの場の設定等） ④ 児童生徒の実態や学習状況に応じた指導・支援 2 各教科の「見方・考え方」を軸とした授業改善の在り方 <ol style="list-style-type: none"> ① 学年・単元における「見方・考え方」の明確化 ② 「見方・考え方」を活用できる学習課題の設定 ③ 活用の基盤となる知識・技能の確実な習得を図る学習指導 ④ 児童生徒の意欲の向上を図る手立て ⑤ 学習内容の定着を確かめる評価の方法